

教育委員会に関する事務の管理
及び執行の状況の点検及び評価

報 告 書

実施日：令和7年1月24日

新庄市教育委員会は、新庄市教育行政有識者委員会の意見を参考に、教育委員会に関する令和5年度事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行いました。

点検・評価の結果、教育関連の事務事業については、概ね順調に進んでいるとの評価に至りました。

点検・評価した事務事業と教育行政有識者委員会の審議概要は、次ページ以降に記載しております。

新庄市教育委員会

令和5年度新庄市教育委員会 事務事業の評価説明資料

1. 第5次新庄市総合計画の事務事業評価を活用しました。
2. 教育行政有識者委員会の審議概要を添付しています。

新庄市教育委員会

【参考資料】

令和6年度新庄市教育行政有識者委員会審議概要

教育委員会に関する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価を行うに当たって、新庄市教育委員会は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条第2項に基づき、新庄市教育行政有識者委員会の意見を吟味し、その活用を図りました。

ここに掲載した資料は、教育委員会の事務事業のうちから4事業を抽出し、令和6年12月2日、新庄市教育行政有識者委員会において事業の評価のために行った審議内容をまとめたもので、新庄市教育委員会はこれを参考に点検及び評価を行いました。

令和6年度 新庄市教育行政有識者委員会 審議概要

審議内容：『令和5年度教育委員会事務の管理及び執行の状況に係る点検及び評価』

開催日時	令和6年12月2日（月） 午後1時30分～午後3時40分
開催場所	新庄市役所101・102会議室
出席委員	阿部彰委員長、今田雄三副委員長、梅津慶子委員、佐藤成美委員 高橋千春委員、早坂信一委員 計6名出席
欠席委員	なし
教育委員会事務局 出席者 (事業説明者)	津田浩教育長、渡辺政紀教育次長兼教育総務課長、杉沼一史学校教育課長、 今田新社会教育課長
諮問事項	『地方教育行政の組織及び運営に関する法律』第26条の規定に基づく、 令和5年度教育委員会事務の管理及び執行の状況に係る点検及び評価 下記4事業を抽出し、点検及び評価の対象とした。 1. 児童生徒の個別支援事業 (学校教育課) 2. 巡回指導事業 (学校教育課) 3. 教育支援事業 (学校教育課) 4. 市民参加型スポーツイベント開催事業 (社会教育課)

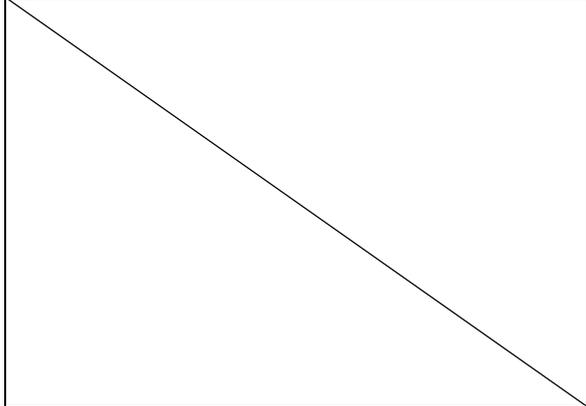
【審議概要】

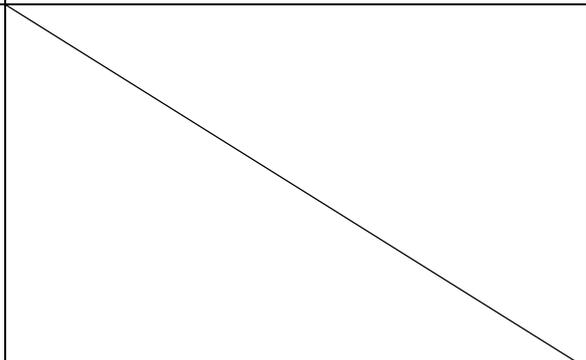
<p>1. 児童生徒の個別支援事業</p> <p>2. 巡回指導事業</p> <p>3. 教育支援事業</p>	
《質疑応答》	
質問及び意見	教育委員会事務局の回答等
<p>児童生徒の個別支援事業の中で、個別学習指導員の方の動きはおおよそイメージがあるのですが、特別支援教育支援員の方はどのような動きをするのでしょうか。また、資格を持っている方や特別な講習を受けた方が支援員をされているのでしょうか。</p>	<p>個別学習指導員は、主に通常学級に配置しており、通常学級において支援が必要なお子さんの支援を行っております。一方で、特別支援教育支援員につきましては、特別支援学級に配置をして、主に特別支援学級の担任の先生の補助を行っております。基本的に個別学習指導員と同様に一般の方を募集しております。特別支援教育支援員になれる方は、元教員などのそういった点に長けている方がなる場合が多い傾向にありますが、必要な資格等はございません。</p>
<p>児童生徒の個別支援事業の中の特別支援教育支援員と、教育支援事業の中の特別支援コーディネーターという方とはどのように違うのでしょうか。</p>	<p>特別支援コーディネーターは、特別支援についてコーディネートをする先生で、各学校で教員の中で1人決めていただいているものです。コーディネーターの先生からは、取りまとめや児童生徒への対応に関する提案、行政との連携のようなどご活躍いただいております。</p>
<p>個別学習指導員などについて、資格等は不要ということで、様々な方がきてくださっているのかなと思います。研修等はどのように行っているのかと考えていたところですが、3つ目の教育支援事業の中の特別教育支援センターで相談や研修を行っているという聞き安心しました。この研修というのはどのくらいの頻度で行っているのでしょうか。</p>	<p>年2回ほど実施しております。業務内容については学校で校長先生とお話しをしながら決めておりまして、研修では個別学習指導員や特別支援教育支援員の方々のご意見や提案、苦勞されていることなどの共有をするというような、意見交換が主となっています。</p>
<p>個別学習指導員の方が通常学級に配置されているということで、担任の先生方にとってはとてもありがたいことだと思います。ただ、学校に伺う機会があって様子を見てみても、先生方と指導員の方がじっくり話している姿を見たことがなく、もっと時間を確保できたら良いなと思います。私は、指導員の方は先生と子どもをつなぐパイプ役として、先生との連携プレーができるようになってほしいなと思っています。話し合う時間を確保することで、</p>	

<p>指導員の方の不安や不満も減っていくのではないかと考えます。</p>	
<p>3つ目の教育支援事業の中の特別支援教育センターについて、これは教育研究センターの中にできたのでしょうか。また、そこで行った個別検査により判定までされるのでしょうか。</p>	<p>新庄市教育委員会学校教育課の中に、特別支援教育センターというものを立ち上げまして、元校長先生の長谷部薫先生に特別支援指導員になっていただき、特別支援関係の適正就学に関する部分を主に扱っていただいております。指導員の席は指導主事と隣り合っており、特別支援の担当と常に連携を取りながら業務を行っています。また、個別検査につきまちは長谷部指導員のほか、教育相談室の相談員2名が検査を行えるため、そちらとも連携して実施しております。その検査結果をもとに最終的に三浦先生に判断していただいております。</p>
<p>現場ではずっと苦勞していて、子どもたちが帰った後の時間に検討を行っていたように思います。先生方が、学校の垣根を越えて頼りやすいところなのではないかと想像しています。学校としてはありがたいところだなあとは思っています。そのような場所があつて、学校以外の方に入ってきていただければ良いかと常々思っていました。「人と人とを繋ぐ」ということは、必要だと分かっているにもかかわらず、学校以外の方に入ってきていただくことで良い方向に進むのではないかと考えます。</p>	
<p>個別学習指導員の人数は児童生徒の数と比例しているのかと思うのですが、どのような基準で配置されているのでしょうか。</p>	<p>各学校何名というような明確な基準を定めることは難しいと思っております。毎年現状を通覧させていただきながら、必要性などを校長先生と相談しております。例えば、病弱学級のような、支援が必要な学級が増えるなど、増員しなければならない学校があった場合には、他の学校の配置数を減らさせていただくといった形で、各学校と相談して配置数を決めております。そのため、各学校への配置数の上限は特に設けておりません。学校からは希望がたくさん出ているのですが、諸事情により増員も難しく、現状維持をしております。</p>
<p>全体的に見まして、特別支援教育に関わる様々な</p>	<p>退職される先生や、既に退職された先生へ</p>

<p>事業をしていただいて大変ありがたいなと思っています。個別支援事業について、先ほど個別学習指導員が充足されていないという話しをお聞きしまして、退職された先生が指導員になっていただければ良いのではないかと思います。以前から新庄市と郡内他町村では待遇に差があるように思います。現在は会計年度任用職員となり、市の待遇も良くなっているのではないかと思います。他町村では教員免許を持っていると給与が少し上がるなどといったことがあると聞きます。現在の新庄市の待遇についてお聞きしたいです。</p>	<p>お声がけをさせていただくと、すでに他の町村での任用が決まっていたり、または人伝いで他の町村での任用が聞こえてくるのが非常に多いと感じています。お話しを伺っていくと、やはり新庄市の給与については他と比べると低いというのが現状でございます。個別学習指導員という任用での報酬については、教員免許の有無により差はつけずに雇用させていただいております。市内で退職された先生にそのまま勤めていただくことが多いのが現状です。また、代替教員が見つからないことも課題となっております。産休等によりお休みに入る教員が増えておりまして、すごくおめでたいことではあります。なかなか代替教員が見つからず学校が苦労しているように思います。再任用による雇用や定年退職の年齢引き上げにより、全体的に人員確保が難しい状況でございます。</p>
<p>市の待遇については私が関わっていた時からの課題でありました。もちろん市として給与の基準があるのかと思いますが、給与を一律ではなくすることなどについても前向きに考えていただければと思います。何十年も学校現場を経験している方であれば支援できることも多いのではないかと考えます。人員確保が難しいという現状では焼け石に水のようにも思いますが、ご検討いただければと思います。次に、巡回相談事業について、三浦先生がご退職されたということで本当に大変だろうと思います。新庄市は今年度から実施回数が前年度の半分となりましたが、鶴岡市や天童市など、三浦先生が関わっておられた他市の状況などお教えいただきたいです。</p>	<p>鶴岡市とよくやりとりをしており、視察も行かせていただき、やはり同じ事情を抱えておりました。三浦先生はこれまでは大学の先生でしたので、金額的な部分もある程度決まってはおりましたが、大学を離れるとなると金額も上がります。そういった部分なども含めて、どの自治体も同じような現状であります。前年度の半分である年10回はお越しくださると約束いただけましたので、今年度は年10回を予定しているところです。</p>
<p>これからどのようにしていくのかという点について、鶴岡市の方向性などお分かりでしたらお教えください。</p>	<p>今後の方向性についても話題にはなりましたが、具体的な話についてはありませんでした。現在は三浦先生がいらっしゃっての判断になってしまっている状況でございます。最上地域に特別支援の考え方をもちたしてくださったのも三浦先生であり、大変ご活躍されておられますが、今後もずっと三浦先生に判断いただけるかというところではなく、あと数年ほどではないかと思います。今後につい</p>

	<p>て、福祉と一緒に幼保小の接続も含めてどのように特別支援教育を進めていくか検討を始めたところ。そういった中で、鶴岡市さんをはじめ、他市と連携をしながらやってみようとお話しをしております。今後の課題というものはおおよそ同じであるかと思えます。また、三浦先生の後を引き継がれる方が大学にいらっしゃいますが、その方からは三浦先生のように一人一人を見ての判断はできませんとお話しをいただいておりますので、違うやり方を考えていかなければならないと考えております。</p>
<p>今名前が出ている三浦先生は、我々の保育園に巡回指導に来てくださっています。以前は5歳児だけを見ておりましたが、現在は3歳児から見ていただいています。子どもの生年月日からして必要な発達のレベルがあり、それを1人ずつチェックしていただきます。数字や色、動物の名前が言えるかどうか、また、やりとりの中での目線などを観察して、子どもの発達レベルや気質の判断をしてくれます。その判断から、保育園や幼稚園では年齢や気質にあった指導を行うことができます。そして、1年経つとまた先生が来てくださって、子どもと同じようにやりとりをして、1年間での変化を見て、気になる子どもがいる場合には、教育委員会との連携や専門機関での受診を検討するよう教えてください。ご指導を受ける前は、普段の関わりの中で手がかかる子だと思っていたのですが、三浦先生の判断によりその背景がわかることによって、配慮の行き届いた保育ができるようになりました。そのため、三浦先生がこのまま引退するという話は、我々もこの先が心配であると感じます。新庄市を含め最上地域にとって変えがたい人材であります。これからの課題ということで教育委員会でも頭を悩ませていることと思えます。</p>	
<p>障がいのある子と関わる機会があると、子どもたちは柔軟で、言われたことに対して反応がない場合にも、返事をしないのではなく、できないだけだとその子の特性を理解できているようです。また、授業中に席を立つ子がいる場合にも、毎日のことで子ども達はあまり気にせずにご過せるようです。その</p>	

<p>中で、個別学習指導員のような方が授業中に補助を行ってくれているおかげで子ども達は先生の授業を受けてすくすく育っているのではないかと思います。そのため、指導員や支援員の方を配置して下さっているこの事業はとても良いものだと思います。また、先ほどご紹介いただいた三浦先生による巡回相談事業について、市がそのような先生と連携を取って子ども達を見てくれているのはとても良いことだと思います。</p>	
<p>教育支援委員会が年2回とあります。子どもの数が減っているのに対し、委員会に上がる子どもの数は増えて来ている状況が前はあったと思います。現在は率にして8.8%とのことでしたが、委員会に上がる子ども達の数は増えているのでしょうか。</p>	<p>市内の児童生徒数は毎年70人程度減少しておりますが、教育支援委員会に上がる児童生徒の数は減っておりません。極端に増加傾向にあるわけではありませんが、ほぼ同数または微増となっております。</p>
<p>不登校となる児童生徒についてもお話しがあり、その原因が家庭や発達にある可能性があるとのことですが、実際の原因が分かっている件数などは把握しているのでしょうか。</p>	<p>以前は学校でのトラブルや教師や児童生徒との問題、または学習についていけないために学校や教室に行きたくないというような案件が非常に多かったように思います。学校から報告があり、教育委員会も一緒に携わらせていただいておりますが、トラブルで不登校になることは年に数件となっております。現在多くなってきているのが家庭の諸事情で兄弟みんなが不登校のような形になってしまっていたり、保護者の方にエネルギーがなくて子ども達を送り出すことができないというようなご家庭です。そのため、福祉と連携しながら保護者支援にも力を入れさせていただいております。保護者の悩みや困り事を共有させていただいたうえで、福祉としてどんな支援できるか、学校教育課では子ども達へどのような支援ができるかを検討しております。特別支援や不登校児童生徒を対象とした適応指導教室やシャイニング教室のほか、今年度中には民間の方へお声がけをして休日の子どもの居場所の選択肢を広げていくための話しを進めてまいりたいと考えております。ご質問いただきました不登校の件数につきまして、具体的に何件と申すことはできませんが、家庭の事情や発達障害のような部分が根底にあると考えられるケースが多いのは事実でございます。</p>

<p>以前は就学前に行う就学指導委員会でおおよその情報をいただいて、就学児健診が行われた後さらに教育委員会と一緒に内容を精査していたと思いますが、就学児健診が終わってから学校に入学するまでの間の部分をフォローしてくれる方が現在いらっしゃるというお話を日新小学校の先生からお聞きしましたが、どのような状況かお聞きしたいです。</p>	<p>教育支援委員会でいただくご意見や、医学的な部分のご意見から、特別支援学校や特別支援学級の方が良いのではないかなった場合には、保護者とのお話を教育委員会にあります特別支援教育センターで行っております。入学してからの子どもに関しては学校が主体的になって保護者とお話しをしておりますが、そこへ指導主事や特別支援教育センターの指導員が行って一緒にお話しすることも可能になっております。委員がお聞きになった方は、最上郡内で市町村を越えて特別支援の相談ができる窓口が出来上がったお話しかと思えます。県の事業で配置されている方で、学校にあるためどの程度活用できるのか考えているところです。</p>
<p>幼稚園や保育園に在籍しているうちに子どもの特性が分かって、入学予定の小学校へ情報を共有してもその時点では幼稚園や保育園に在籍しているため学校側は関わりづらく、また、幼稚園や保育園の先生も忙しいため小学校に入学すると様々な施設や相談ができるところがあるから活用してくださいというような形になり、入学前のとても大事な半年間の対応が抜けてしまう場合があったように思います。私が勤務していた学校では自分で手を挙げて幼稚園等に伺って入学前に子ども達を見るようにしていました。事前に情報をいただいても、学校に入ってからは対応が遅くなってしまうため、幼保小を繋ぐポストがあると良いなと思っていました。幼稚園や保育園、小学校、中学校で別々に対応をしてしまうと上手くバトンタッチができない場合があります、そこで1番困るのは保護者の方です。連携を取って対応していけると良いなと思います。</p>	<p>巡回相談により3歳児という早い段階から子どもの特質を知ること、家庭教育についても大事にしてもらいたいと考えており、現在進めております。また、小学校と中学校で支援が必要な児童生徒については特別支援計画の個人計画を作成しております。その計画が幼保と同じものであればもっと良いのではないかという話もあるのですが、幼保の先生方には1人1台のパソコンを行政から提供できていないなどの課題がございます。幼保では小中学校とは別に個別の支援計画を作成しており、それを小学校と繋げています。行政の福祉には元養教の方にも入っていただいて、繋がり部分を大事にしております。先ほど申し上げた特別支援教育委員会に幼保の園長先生等も入っていただいて、お互いの情報を共有し、負担にならないような形を模索しているところです。</p>
<p>現場の話を補足しますと、現在幼保小の繋がりがとても大切にされています。三浦先生の診断ではランクのようなものについて、保育で改善できる子どももいます。はっきりと判定された場合には療育センター等に行って指導やサポートを受けることで改善が見られます。そういった子ども達について、特別支援教育センターの指導員が巡回に来て見てくださいます。養教の先生も福祉の方からいらっし</p>	

<p>やって、幼保の私達からの情報と実際の子どもの様子を見ながら進めている状況ですので、以前より繋がりについては改善されています。現在はきめ細かくサポートできる体制となっています。</p>	
<p>《方向性》</p>	
<p>・以前より幼保小の繋がりが改善されており、児童生徒へのきめ細やかなサポートができる体制となっています。非常に大事な事業と言えるため、今後も継続をお願いしたいです。</p>	

<p>4. 市民参加型スポーツイベント開催事業</p>	
<p>《質疑応答》</p>	
<p>質問及び意見</p>	<p>教育委員会事務局の回答等</p>
<p>以前のいものこハーフマラソン大会は東山から山屋方面を走るコースで、観客が少なかったように思います。新庄キャッスルサイドドリレーマラソン大会では街中がマラソンコースになりましたので、一定の観客があったのではないかと感じました。大会当日は味覚まつりも開催していたので、その通りを走っていたらもっと観客が増えたのではないかと思います。また、いものこ汁等の新庄市の名物と言われるものを参加者に配るなどするともっと盛り上がったのではないのでしょうか。以前のマラソン大会と今回のマラソン大会の違いでもあります。参加者から見てどうだったのかなと思います。今回の反省を持って、次回は何かお考えがあればうれしく思います。今後も味覚まつりと同日となる場合には、双方のイベント関係者が連携してより一層盛り上がるようにしていただければと思います。</p>	<p>いものこハーフマラソン大会では、観客が少なかったというご意見がありました。コースの都合上、農繁期ではなく稲の刈り取りが終わった時期に開催している状況でございました。令和5年度に第1回を開催したキャッスルサイドドリレーマラソン大会は、コースを街中の最上公園周辺の周回コースとしていて、一部県道を挟んでいるものの警察の許可を取りやすい場所で行いました。コースについて、今後も検討してまいりたいと思います。また、味覚まつりは出展者の皆さんが賑わいを創出してくださっておりますので、同日に開催することで相乗効果が出るようにイベント関係者と相談してまいりたいと考えております。</p>
<p>参加者へのアンケートは実施しているのでしょうか。</p>	<p>走った方へのアンケートは実施しておりませんでした。次回以降は実施したいと考えております。参加した方からのお話の中で、自分の記録を求めるといよりは、仮装等をしてイベントを楽しむことに徹している方がいたように思います。</p>
<p>やはり協力していただける方からはアンケートを取った方が良いと思います。アンケートの集計結果を事務事業評価シートに活かせるのではないかと考えております。今回の評価シートの評価指標を見ると、活動指標と成果指標の2つを評価しておりますが、会議やイベントの実施回数、参加者数のほかに、アンケ</p>	

<p>ートで「満足」「やや満足」と回答した人の割合を成果指標として取り入れることも有効なのではないかと思ひます。評価の方法は様々あるかと思ひますが、指標についての研究もご検討いただきたいと思ひました。</p>	
<p>商工会議所青年部で、同日に大会会場でキッチンカーの出店等を行う新庄もがみベースを開催しております。マラソンが終わったあとには、チケット等を持って出店を見に来てくれる方が多かったです。令和7年度の開催時期についてですが、10月の第3週に山形県PTA研修大会が文化会館で開催予定であり、第2週は防災週間であることからそれ以降であるとイベントを開催しやすいのではないかと思ひます。</p>	<p>会場にお越し下さった選手・観客の皆さんに食を楽しんでいただくため、商工会議所青年部と共催しまして、新庄もがみベースという場所を用意させていただきました。令和5年度に第1回を開催し、今年度で2回目となりましたが、来てくださった方が利用しやすいようにステージイベントも用意されており、今後も共同して進めていけるのではないかと考えております。また、来年度につきましては、山形県PTA研修大会があるとのことでしたので、10月の第3土曜日を候補から外して、これから検討してまいりたいと考えております。</p>
<p>新庄市では様々なスポーツを市民の方ができるような取り組みがあったかと思ひます。このリレーマラソン大会に、競技ごとにチームとして参加してもらうことができれば、他のスポーツを行っている方達との関わりや競争意識が生まれて盛り上がりにつながるのではないかと思ひました。</p>	<p>スポーツをされている方達も、1年間の練習の成果を秋のスポーツレクリエーション祭や総体で見ているのではないかと思ひます。リレーマラソンはそのような中でも取り組めるかと思ひますので、お声がけをさせていただきたいと思ひます。</p>
<p>先ほど仮装の話が出ましたが、仮装について表彰などはあるのでしょうか。</p>	<p>仮装についての特別賞がありますので、引き続き盛り上がるよう努めていきたいと思ひます</p>
<p>開催時期が10月でハロウィンが近いということもありますので、若い人達が参加してくれることを期待しています。</p>	
<p>《方向性》</p>	
<p>・イベント終了後にアンケートなどから成果と課題を検証・整理しながら、次のイベントにつなげていってほしい。他のイベントと同時開催などにより相乗効果も生まれており、今後ともイベント開催内容を工夫しながら、より一層盛り上がるようにしていただきたい。</p>	